

「生業支援・学習支援から復興を考える」

担当教員名 西城戸 誠／辻 英史

1 コースの概要

日 程	2003年8月5～9日、19～23日
場 所	宮城県石巻市
参加人数	各4名（計8名）

2 コースの目的

メディアなどで伝えられる2011.3.11の東日本大震災被災地のありようを見て、何とかしなければならぬ、何か助けになることをしたいと考え、個人的に被災地でのボランティアを経験した方もいるかと思えます。

法政大学人間環境学部では、宮城県石巻市において、NPO 法人 PARCIC と提携し、2011年から生業支援・学習支援を中心とした震災ボランティアをおこなっています。今年も、PARCIC の活動を通じて震災支援のあり方を実践的に学ぶ機会を設けました。

3 事前学習

事前学習のゲスト講師として、このフィールドスタディの受け入れ組織である、NPO 法人パルシックの西村陽子さんにお越しいただき、石巻市北上町の概況や、震災支援の現状と課題について講義をしていただきました。このフィールドスタディの参加者の定員は各4名と少数ですが、これは現地に適当な宿泊施設がなく、これ以上の規模ではボランティアの受け入れが困難であるためです。また、必要とされるボランティアの内容も、状況によって変化するため、現地での活動は臨機応変に行う必要があることを参加者は確認しました。また、石巻市北上町で地域の生業に関する調査研究を行っている、長崎大学の黒田暁先生の講義を聞き、現地の状況への理解を深めました。

また、文献講読として、震災前の北上川河口の生業と半栽培、震災後の東北地方の漁業のあり方や、震災後の漁業者の海に対するまなざし、さらに仮設住宅の状況と支援といったテーマについて、阪神淡路大震災におけるボランティアに関する論文などを講読しました。

4 行程（内容）

8月5日～9日、19日～23日の2回、各4泊5日で実施しました。石巻に到着後、市街地の見学を行い、北上町に向かいます。北上町では、生業支援として、パルシックが実施している仮設住宅団地（にっこりサンパーク）近くの畑で作物の収穫や団地内での販売の手伝いを行いました。また、十三浜大指地区で漁業の協業化を行っている「鵜の助」(<http://unosuke.jp/>)で、漁業の手伝いをおこないました。また、学習支援としては、仮設住宅の集会議場で子どもたちへの学習支援活動も行いました。

このような、地域の生業や学習支援を通じて、被災地における人々の暮らしを間近に体験し、「復興とは何か」という点、また震災ボランティアの社会的な位置づけや、ボランティアをする／されることの意味と意義などを考えることになりました。なお、フィールドスタディの最終日には担当教員が現地を訪問し、ふりかえりの現地学習を実施しています。

5 事後学習

事後学習会では2つの日程それぞれの活動報告を行い、内容の確認を行いました。また、各自がテーマを設定し、レポートを作成しました。人間環境学部のホームページに掲載されています。

また、法政大学大学院まちづくり都市セミナーにおいて、パネル報告として、学生が地域社会に関わる実践例の紹介を行いました。



「鵜の助」にて土嚢袋作りの手伝いを行いました。